

## 保育計画成果報告書

|         |                                       |
|---------|---------------------------------------|
| 法人名等    | カワテイノベーション株式会社                        |
| 施設名     | つぼみ保育園                                |
| 報告者（役職） | 辻 伸至（施設長）                             |
| 住所・連絡先  | 滋賀県彦根市高宮町 2373                        |
|         | ☎ 0749-49-2572                        |
|         | E-mail tsubomi_hoiku_hikone@ybb.ne.jp |

### ○タイトル（保育計画）

感じよう！体の大きさ、体の重さ！ ～やってみるって楽しいね！～

### ○主な助成備品

移動式鉄棒、平均台

## 1. 保育計画策定の目的

つぼみ保育園では、子ども達の「やってみたい！」をやってみようと応えられる保育を行っています。主な活動は散歩を通して経験を豊かにするという事で、田んぼのあぜ道を歩き、体幹を身に付けたり、側溝にかかる一本橋を渡ったり、生活の中にあるものを使い運動能力を高めていました。散歩や生活の中で走る、止まる、登る、飛び降りる、滑り降りる、くぐる、またぐ、バランスをとる、飛び越す等の基本的な運動の動きは安全に行うことができますが、ぶら下がるということだけでは3歳未満児が安全を確保して行える場所がなく、この保育計画を策定しました。

日々の遊びの中で鉄棒を使い、ぶら下がり握力をつけることで、物をしっかりと握る力をつける。また、ぶら下がることで身体を伸ばす心地よさを感じるとともに、背筋が伸びて姿勢が良くなることを促す。鉄棒に乗ることで通常の視点からは見えない景色を感じ、態勢を保持するバランス力を養うことを目的として鉄棒の導入を考えました。

平均台では、細い場所を渡って歩くためのバランス感覚を養うとともに、少し高い所からバランスを崩した時に安全に落ちるための経験を積む機会を作るということにも着目し、遊びの中で危機回避能力の向上も養えることを目的とします。

鉄棒、平均台を使うことをきっかけに、安全な失敗を繰り返し、再度チャレンジしよう「また、やってみよう」の気持ちを継続させ、自分なりの達成感を味わえることを目指しました。

## 2. 具体的な実施内容

### 【鉄棒】

園庭に常に出しておくことで、子ども達がいつでも触れて遊べるようにしておく。いつでも使えることで鉄棒になじみが湧き、少しでも触ってみよう、ぶら下がってみようという気持ちを引き出す。また、低鉄棒、中鉄棒、高鉄棒の順で設置しておくことにより、高い鉄棒に手を届かせようとしたり、自分の挑戦したい高さの鉄棒を選んで遊んだりできるようにする。移動式の鉄棒であることを生かし、半円形に並べておくと子ども達は自分たちで周回遊びを始めるきっかけにもなっていた。



### 【平均台】

鉄棒同様に園庭に常に出しておくことで、いつでも自由に乗り越えたり、渡ったりできるようにしておく。高さの低い平均台は裏庭に設置し、0歳児がつかまり立ちをしたり、支えにしてつかまり立ちをしたりと、ゆったりとした空間で使えるようにしておき、年齢の違う子どもたちが自由にやってみたいと思える環境を安全面も考慮し設置するようにしておく。



### 【室内遊び】

鉄棒、平均台ともに持ち運びが自由なため、悪天候の日には保育室に持ち込み使用する。保育室で使っている物と併用し、周回遊びの一つとして使用する。0歳児～2歳児までが同じスペースで遊んでいるので、大きい子は小さい子に手を貸したり、小さい子は大きい子の様子を見て真似をしたりと異年齢のかかわりを持てる機会を作るようにした。



### 3. その成果と評価

園生活の中に鉄棒と平均台が身近にあることで、散歩に行く前に毎日少しずつぶら下がる時間を作り、鉄棒や平均台で遊ぶ楽しさを味わうことができていた。保育者と一緒に楽しく遊ぶことで真似をして肘を曲げた状態でぶら下がったり、「豚の丸焼き」のように足を引っかけてぶら下がったり、様々なぶら下がり方ができるようになっていた。また、友達同士で自分なりのぶら下がり方を見せ合ったり、登降園時にお家の人にできるようになったことを見せたり、自分の「できる姿」を日常的に周囲に披露する場面が多く見られ、子ども達自身の自信につながっている姿が見られていた。



平均台を使っている子の中には、平均台の上に乗って渡るだけでなく、お腹をつけて這う子、平均台をくぐる子など自ら考えて様々な動きを試している姿が見られていた。子ども

達の「やってみたい」という動きや活動を自由に行うことで、自分にできるかどうか試し、どこまですると危険が及ぶものなのかなどを体験して身につけることができていた。



日常的に触れて遊ぶことで、危ないと思った時には自制をし、できると思ったことは高度な事にも挑戦しようとする姿が見られていた。送迎時に家族が逆上がりにチャレンジしている姿を見て同じように挑戦しようとする園児の姿もあった。鉄棒の上にツバメのように乗ったり、周囲の友達の真似をしてチャレンジしたりする姿もあった。子ども達の限界を保育者が決めるのではなく、一人ひとりのやる気や、能力、やってみたい思いを大切にしていけることを増やす保育、「やってみたい」の思いを安全に実現できる保育を進めることができた。



#### 4. 今後の課題と展望

今後の課題としては、「やってみたい」の思いを継続していくために一人ひとりに合った少し高い課題を提供し続け、運動能力を高めていくことが課題となる。また、鉄棒や平均台に興味がない子にも遊びの中で自然と鉄棒や平均台の楽しさ、安全さを伝えていくことも課題となる。運動遊びを通して日常生活の危険予測をしたり、活発に遊び生活できる健康的な身体づくりをしたり、継続して続けていきたい。

以上